
平和は和み

八百万 百合

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

平和は和み

【Nコード】

N3798Z

【作者名】

八百万 百合

【あらすじ】

平和が一番、それが好きな男子高校生（村奈）の日常と、自分の過去を見つげるために来た女子高校生（升真）の波乱を書いた愚者里奈物語

Heiwa is Nagomi

「はあ…今日も平和な一日だったな」

颯爽と自転車が家へ帰った

僕の名前は村奈真新^{そんな まにいち}知、平和を好み、面倒なことはしない性格である

「ただいまー」

「おかえりー、テストどうだった？」

「普通」

「普通以外で示せ」

にらめつけてきたので素直に言う

「まあまあよかったんじゃない」

「ならいい」

…ふう、さすが母さん、元警察官だったのはいまだに健在だな

「もう…面倒だ」

この物語は日常の男子高校生を書いたストーリーである

なごみたい、それが私の望み。

1 和み。性格（前書き）

マゾくん、田中くんです

1 和み。性格

「ねえ、お腹空かない？」

「え？俺は空かないけど…」

ぐう

「腹の虫なつたぞ、田中？」

ぐう

「田中？」

ぐお

「…寝とんかい！」

「ああ、おはよ真新知」

こいつは田中、たなか田中栗鼠真。りすま俺の友達。

「出掛けよう」

「いきなり!？」

「当たり前だろ」

「はあ…。」

ってなわけで自転車に乗って果てしない旅へ行った俺たちである

「…到着!」

「…はあ…はあ………」

田中の荒い息が…

「栗鼠真…お前、興奮するなつて!」

「興奮…してないよ…ただ…その、早いつて」

「早いか?こんなん普通じゃない?」

まあ、普通といつても、たちこぎで、信号ギリギリで、休憩なしでサイクリングしてた程度だけどな…

「さすが!栗鼠真…太っ腹!」

「いやいや…太っ腹関係ないよ!」

まあそんなこんなありながら、コンビニについた俺たち。

「ねえねえ猛々、次わアゝホテルがいいなあ」

「しょうがないなあ…薫は」

うあ…リア充だ、消えろと言いてえ!!

「リア充爆発しろ！」

「あ、栗鼠真…言っちゃった」

「何あいつく、猛、さっさと行きましょ」

「…あ、あ…」

「…猛？」

「…僕と、結婚してください！たった今、一目惚れしました！」

「男に興味ねえ、消えろ」

栗鼠真…言っちゃうな

「ああん、もっといって」

「馬鹿！アホ！ゴミくず！」

「ああん…き、気持ちい…はあはあ」

「ついてくんな！」

「ああん！…あなたに一生ついていきます！ご主人様！」

「くず！邪魔だ！」

「もっと言って、なぶって」

「ちっ！金稼ぎの男ができたと思ったのに…」

うぁ…色々と本性丸出した…

「真新知！助けて！help！」

「…頑張れ」

「酷い！？」

この物語の中心的人物はこの三人である

村奈真新知、田中栗鼠真、マゾくん

さぁて…ここからが本番だ！

「助けてえ〜」

田中の助け声が聞こえるが今日はほっとしよう。

1 和み。性格（後書き）

次も遅いです

2 和み。肺活量（前書き）

まあまあ、新たな物語のはじまりだね

2和み。肺活量

「田中、肺活量少ないな」

「え、いきなり何？」

「だって、持久走9分以上でしょ」

「え、あ…ん」

「凶星か…」

「9分以上じゃないけど…」

「あ、違ったの？」

「10分以上なんだけど…」

「もっと遅かったか！」

俺は床を叩いた足で思い切り踏んづけた

「ど、どうしたの？」

「くっ、俺としたことか！」

「自分を責めないで！」

「いや、責めてないよ」

即答

「ええ〜」

「ただ…栗鼠真の惨めな姿を見て…クク」

笑いが…

「ねえ、笑ってるよね？」

「笑ってないよ」

またまた即答

「いやいやいや、嘘はいけないよ……」

「ああん！！てめえ、俺様が嘘をつくと思ったか！」

「すいません……」

「わかりやあいんだよ……クク」

『笑ってルーー』

「ああん？何か言ったか！」

「あ、すいません……」

「ククククク……」

「く、笑え……！」

「何言ってるの？ちょっと馬鹿か？」

「酷い！いつも思ってるけど酷い！」

「まあまあ、い・つ・ものことじゃないカ！」

バシバシ

栗鼠真のかたを強く叩いた

「イタイイタイ」

「なに！？イタイイタイ病だと！？」

「違うからね、うん」

「は？」

「……え……」

「まあ……飽きたから戻そう」

「あ、うん」

「何話そう？」

「何話そうか？」

沈黙が続く

「…消えてくれ無い？」

「嫌だよ！」

「え〜〜？」

「嫌に決まってるよ！」

「あ、空に…穴が」

「え？」

真上に真っ暗な穴がぽっかり空いていた

「「え〜〜！」」

「どうしようか、栗鼠真？」

「本当にどうしよう？」

「あ、穴の大きさが…」

「大きく…」

「どうしよう」

穴の大きさはついに、空の全体を包んだ。

2 和み。肺活量（後書き）

たあ、まじりまじり

3 和み。仕事に戻ろうと意志（前書き）

ここから始まる物語

3 和み。仕事に戻ろうと意志

それは一年前

「母さん、金ほしいなあ」

「おだまり、ますまはる升真春」

ボス

鈍い音、つまり肉の音、つまり痛い

「いったあゝ!!」

「そうかい、良かったねえ」

「良くないよ!」

「さかま阪間、コイツ片付けておいて」

「わかりました!!姉御様」

「ちょっと、よくないよ!!!そうゆづの」

「いいじゃないっすか、減るもんじゃないし」

ピタ

柔らかいお腹に触れた

「ああ…ッん、や、やめてください!」

「べ、別に好きでやってるわけじゃ…好き、大好き!」

「あ…え?」

私は首を傾げた

「…1000年前から好きでした。この思い、受け取ってください!」

私の心に響いた。そして、遠い過去を揺さぶった。だが、駄菓子屋止まりだった。その後の返答ははっきり覚えていない。

「…あ…た…ん…」

そして一年後、つまり今に至る

「ついに来た、私の答えを見つける時を」

コノ世界八、二世工にせこうという。偽物の世界が和みに溶け混んでいるのだ。

それは残酷で酷い、醜い世界。
物語はここから始まりそうだ

3 和み。仕事に戻ろうと意志（後書き）

暑いこともある、それもいいさ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3798z/>

平和は和み

2012年1月6日02時50分発行